

【実施報告】

第 21 回オンラインセミナー

「自治体職員必見！ サステナブルイベント開催のススメ

～オランダでの世界初のサーキュラー・フェスティバルの事例を踏まえて～

第 21 回目のセミナーでは、オランダを拠点に多方面でご活躍されている西崎こずえ氏をお迎えした。今回のセミナーでは、最初にサーキュラーエコノミーの概要やオランダ政府、アムステルダム市の政策の紹介ののち、今年 4 月に開催された、世界で初めてのサーキュラー・フェスティバルである音楽フェス「D G T L」がどのように資源の完全循環を実現したのかについて、現地取材の結果を踏まえた臨場感のある内容でご解説いただいた。

セミナーの主な内容について、以下のとおり報告する。

1 概要

- 日 時：2022 年 10 月 12 日（水）16 時 30 分から 17 時 40 分まで（日本時間）
- 当日参加者数：105 名（申込者数：231 名）
- プログラム：①開会挨拶・講師紹介 (16:30～16:35)
- ②講演 (16:35～17:10)
- ③質疑応答 (17:10～17:40)

2 講演内容

<サーキュラーエコノミー概要、オランダ政府・アムステルダム市の取組について>

- ・サーキュラーエコノミーとは、「原材料や製品が資源としての価値を失うことなく循環する経済」である。仕入れ・製品デザインの段階から、資源の回収・再利用を前提としており、廃棄ゼロを目指す。具体的な取り組みとしては、できる限りバージン素材の利用を避け、回収後のリユースやリサイクルがしやすいように解体を前提としたモジュールデザインを導入し、修理や部品交換などを通じて製品寿命をできる限り長くするといったことなどがある。
- ・オランダ政府は、2050 年までに完全なサーキュラーエコノミーへの移行を達成するという野心的な目標「Circular Economy in the Netherlands by 2050」を発表した。
- ・首都アムステルダム市は、世界の自治体として初めて 2050 年までに 100% サーキュラーエコノミーを実現すると宣言し、その具体的なロードマップを示している。また、サステナブルイベント開催のためのガイドラインを策定している。

<D G T L について>

- ・2022 年 4 月 16 日～17 日、2 年半ぶりとなる「D G T L」音楽フェスティバルが開催された。チケット制のものとしてはアムステルダム最大のイベントのひとつで、2 日間の間に 5 万人もの人が訪れる。

- ・ イベントが始まる数週間前から始まるメールコミュニケーションが特徴的。例えば、会場に駐車場は無いこと、会場で食べられる食事がビーガン 100%であること、またそれが環境負荷をどれほど削減できるのかなどが事前に参加者に伝えられる。
- ・ ブースの躯体は、再利用可能な材料（建材）を使用しており、使い捨てではない。
- ・ 飲み物を入れるカップも再利用可能なもの。カップをブースに返却すればコインと交換でき、ずっとカップを持ち運ぶ必要はない。コンサート会場では、背の高いサインを担いでいる回収担当者に、不要になったカップ渡せばよく、音楽を聴いている最中に会場外のブースにわざわざ返しに行く必要はない。フードコートで販売しているハンバーガー等の食品も、プラントベースの食材を使っている。
- ・ 会場内にゴミ箱はなく、リサイクルステーションに不要なものを持って行って分別してもらう。食品ゴミは会場内の機械にてコンポスト化される。綿密な分別のため、数多くのボランティアが働いている。若年層へのサステナビリティ研修と教育にとっても力を入れており、将来サステナビリティ・マネージャーを目指す人のために多くのプログラムが用意されている。
- ・ トイレでの分別、再利用も徹底されており、元々は宇宙船のための栄養循環に関する技術の実装を担当とする研究者のピーター氏が開発している機器では、尿を水に浄化している。法規制上、現在はそれを飲み水としては提供できないため、今回のイベントでは木に水をあげている。
- ・ 今年のDGT Lで初めて導入された、ソーシャル・サステナビリティについての取り組みがあり、コロナ禍において社会の中でもっとも脆弱な立場に立たされている人たちが大きな影響を受けることを目の当たりにしたことを受けて、イベント産業をより良い方向に導くためにすべきこととして主催者が検討した結果、すべての人が安全に楽しめる場をつくるための働きかけ（周知啓発）を行うブースが設けられている。（例：セクハラに関する問題提起やどのような行動を起こすべきかを考えさせる内容のブース）
- ・ 会場内のエネルギーは、太陽光を始めとする再生可能エネルギーで 100%賄われており、グリッドで適切な光量になるよう調節されている。

3 質疑応答

ロンドン事務所長 質問	西崎氏 回答
・ サーキュラーエコノミー推進における自治体の役割は何か。	・ アムステルダムにおいては、市の存在感は大きい。今後のロードマップが明確であり、関連規制やインセンティブをもって、企業・団体・市民を政策的に誘導している。 ・ また、トップダウンではなく、頻繁に関係業界などとカンファレンスの場を持ち、どういう支援が必要かについてヒアリングを行うなど、対話を重視しているのも特徴。 ・ 講演中に紹介したピーター氏の、尿を飲み水に変換する装置についても、まずは尿を浄化して木に水を撒くというレベルまでの技術開発について支援するといった柔軟な支援も行っている。（将来性を見据え

	<p>た上で、その途中段階の技術開発も支援。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーキュラー・リーダース・カンファレンスという、200 以上の名だたる企業の CEO・役員を、携帯電話持ち込み禁止かつマスク等からは非公開の場で、10 時間ほどをかけて、サーキュラーエコノミーについて説明するほか、自由に意見交換を行う場がある。 ・啓発のためのイベントは、大・中・小様々な規模感のイベントがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・オランダでは、サーキュラーエコノミーの意識啓発はどのようにおこなっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキュラーエコノミー推進のためのインフラ整備や、イノベーションやスタートアップ支援など。
<ul style="list-style-type: none"> ・オランダ政府の 3 億ユーロの支援は、具体的には何を支援対象としているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期・長期の視点が必要。 ・初期投資には政府助成金が使えることもある。また、会場から出てくるものがゴミとしてではなく価値あるものとしてお金を出して引き取ってくれる会社もある。そのため、単にコストが上がる一方というものでもない。もちろん、分別の手間などはあるが。 ・長期的には、オランダ政府の政策の方向性を鑑みると、サーキュラーイベントのニーズが今後増えていくことや、早くサーキュラーイベント対応できるようになることが企業にとって（競争上）有利になるということもある。
<ul style="list-style-type: none"> ・サーキュラーイベントは、通常のイベントと比してどの程度コストが上がるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキュラーエコノミー対応を行うことが、金銭的メリットにつながるような仕組みを整えること重要。その中で、企業・団体が、それぞれ 1 サービスからでもよいので各々できる範囲から始めていけば、やがてそれに多くの人がついてくると考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・サーキュラーエコノミーに向けた社会のうねりを起こすためには、どこから手を付ければよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダにおいて 2 月にロックダウンが解除され、DGT L は 4 月に開催されたが、皆さん気にせず使っていた。 ・カップはきちんと洗浄する装置もある。
<ul style="list-style-type: none"> ・DGT L 会場のカップについて、コロナ禍においても抵抗感なく来場者は使っているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その通り。固いしっかりしたコップである。
<ul style="list-style-type: none"> ・DGT L このカップは何回も使う前提のものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はあまり誰も気にしておらず、マスクをつけている人もいない。 ・リモートワークはコロナ前に比べて一般的になってきた。消費行動については戻ったと思うし、むしろ反動でコロナ前よりも活発かもしれない。
<ul style="list-style-type: none"> ・オランダでのコロナの状況はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダ人は合理的に考えるので、短期的・長期的に見てメリットがあると思えば行動する。(例えば、ソーラーパネルの導入など。) ・日本人も、例え前例がなかったとしても、それをすることにメリットがあると思えば、その動きは加速していくのではないか。そのように思えるような経済的メリットを示すことが重要。
<ul style="list-style-type: none"> ・オランダのようにサーキュラーエコノミーを推進していくには、日本はどのようにするとよいと考えるか。 	